

令和6年2月20日

令和5年度 学校関係者評価委員会評価結果報告書

世田谷区立桜町小学校
学校関係者評価委員会
委員長 毛利 任宏

世田谷区立桜町小学校学校関係者評価委員会は、「学校関係者評価アンケート調査」、「教員との面談」ならびに「学校運営の適宜視察（運動会、学習発表会、公開授業等）」を通じて、令和5年度の学校関係者評価について意見交換を行い、評価結果を取りまとめましたので、以下のとおりご報告いたします。

なお、地域、保護者、児童のみなさまには、「学校関係者評価アンケート」実施にご協力いただきありがとうございました。

1. 令和5年度学校関係者評価委員会開催状況

委員会	開催日	評価委員出席者（敬称略）	桜町小学校出席者
第1回	令和5年 6月27日	小暮、外館、毛利、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長
第2回	// 10月14日	小暮、外館、毛利、安田	中村校長、平山副校長、上原副校長 （以下面談のみ出席） 瀧本教諭、藤井主任教諭、室井主任教諭
第3回	// 12月12日	小暮、外館、毛利、安田、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長
第4回	令和6年 1月23日	小暮、外館、毛利、安田、山本	中村校長、平山副校長、上原副校長
第5回	// 2月20日	小暮、毛利、安田	中村校長、平山副校長、上原副校長

2. アンケート調査実施概要

(1) 調査対象 5・6年全児童、全児童保護者、地域・学校関係者

(2) 実施日 令和5年11月13日～11月27日

(3) 調査方法

① 選択回答アンケート

設問に対して5択（Aとても思う、B思う、Cあまり思わない、D思わない、Eわからない）の選択回答アンケートを、Web方式で実施した。評価項目は、区からの共通評価項目と当校独自評価項目で構成され、評価項目内容は昨年度同様である。

② 自由記入アンケート

選択回答アンケートを補完し、より評価の精度を高める目的のために選択回答アンケートと合わせて、Web方式で実施した。昨年度までの設問は、コロナ禍という特殊な学習環境

に特化した部分と学校全般についての2つの自由記入欄を設けていたが、コロナが5類に移行したことにより、本年度は、コロナ禍の自由記述をなくした。(児童は除く)

(4) 配布数と回答数

① 選択回答アンケート

項目		5・6年児童	全児童保護者	地域・学校関係者
配付数	本年	283	933	31
	昨年	292	942	30
回答数	本年	252	542	21
	昨年	268	449	17
回答率%	本年	89.0	58.0	67.7
	昨年	91.7	47.6	56.6
	昨年差	△2.7	+10.4	+11.1

② 自由記入アンケート

属性	アンケート送付数	アンケート回答数	回答率 (%)	回答率前年比 (%)
1年生保護者	134	19	14.1	△5.7
2年生保護者	161	18	11.1	△1.7
3年生保護者	162	13	8.0	△5.9
4年生保護者	154	17	11.0	+1.4
5年生保護者	130	13	10.0	+2.8
6年生保護者	153	11	7.1	△5.7
わかかさ保護者	39	5	12.8	+4.2
保護者計	933	96	10.2	△2.5
地域・学校関係者	31	7	22.5	△0.8

3. アンケート回答結果について

(1) アンケート回答率について

- ・ 選択回答アンケート回答率は、児童は昨年比△2.7%であったが、保護者全体は昨年比+10.4%と一昨年のWeb方式導入前の回答率92.9%には戻らなかったものの。本年度は、締切りの1週間前・3日前にリマインドメールを行ったことで、昨年度よりは回答率の増加が見られた。
- ・ 自由記入アンケートの回答率は、保護者全体で10.2%と、昨年比△2.5%と選択回答アンケート回答率とは逆に減少した。地域・学校関係者も昨年比△0.8%と選択型アンケート回答率の増加とは逆に若干減少した。また、各学年保護者の回答率は、1年生保護者の回答率が昨年度より減少したものの、学年では最も高い回答率であった。4年生、5年生、わかかさ保護者の回答率が昨年度より増加した。1年生保護者は、親子ともに小学校経験が初めてのことから例年高い傾向にあり、本年度も同様の傾向となっている。
- ・ 昨年度よりWeb方式に変更となり、回答率が大幅に減少したことから、本年度はリマインドメールで回答を促したが、期待された効果は見られなかった。来年度は、教育委員会に対し、世田谷区の小中学校の回答率の状況について、把握されている内容や改善策があるようであれば共有を求め、回答率増加を図ることとしたい。

(2) 児童(5・6年生)の選択回答アンケート結果

① 肯定的回答、否定的回答の多かった項目

- ・ 29の設問項目に対し肯定的回答の多かった項目と否定的回答(「わからない」回答を

含む)の多かった項目は下記の通りとなった。

- 肯定的回答の(%)は、Aとても思う、B思う回答合計を、否定的回答の(%)は、Cあまり思わない、D思わない、Eわからない回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。(92.1%) ② 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(92.1%) ③ わたしは、毎日、家族と「おはよう」「行ってきます」「おやすみなさい」などのあいさつをしている。(92.0%)	①、②とも、学習に関する項目で、昨年度同様肯定的回答が多いが、回答率は低下した。(昨年比①△3.1%、②△2.3%) 本年度の重点目標である一確かな学力の育成ー「全ての教育活動における探求的な学びを通じて、学習を自分毎として捉え主体的に学び、高い思考力・判断力・表現力、必要な知識・技能を身に付け、共感・協働する子どもを育てる。」への取組みの効果が反映される項目である。 ③ は、当校の独自項目であるが、昨年度より回答率が低下している。(昨年比△1.3%)
否定的回答	① 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある(52.0%) ② 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。(34.4%) ③ 先生たちに相談できる。(27.4%)	① は、過去9年間を通じて同様の傾向にあるが、昨年度より若干減少した。(昨年比△4.8%) ② は、キャリア教育に関する項目で、昨年度より13.9%増加している。本年度の「学校の教育目標及び重点目標を達成するための基本方針」の一つである「キャリア・未来デザイン教育」への取組みの効果が反映される項目である。 ③ は、先生についての項目で、昨年度より8.7%増加している。特に6年生は36%と昨年度より17%増加している。

②昨年に比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目(昨年比±%)	回答の分析
増加	先生に注意されたことは理解できる。(＋8.4%)	生活指導に関する項目である。
減少	自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。(△13.9%)	上記、否定的回答②に記載のとおり。

(3) 保護者の選択回答アンケート結果

①肯定的回答と否定的回答の多かった項目

- 39の設問項目に対し、肯定的回答の多かった項目と否定的回答(「わからない」回答含む)の多かった項目は下記の通りとなった。
- 肯定的回答の(%)は、Aとても思う、B思う回答合計、否定的回答の(%)は、Cあまり思わない、D思わない、Eわからない回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 集団生活の中で互いに気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、他者を大切にすることの大切さを伝えている。(98.0%)	① は、当校独自項目で、昨年度より2.9%増加している。本年度の重点目標である一豊かな人間性の育成ーへの取組みの効果が反映される項目である。

答	② 学校行事は、子どもにとって楽しい。(97.0%) ③ 学校行事は子どもにとって達成感がある。(94.7%)	② と③は、学校行事に関する項目で、②は昨年度より1%増加、③は昨年度同様である。運動会、学習発表会、宿泊行事などの学校側の運営に対する評価と期待が反映される項目である。
否定的回答	① 家庭では、日頃からお子さんに家庭での役割を与え、決まったお手伝いをさせている。(42.2%) ② 私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している。(34.8%) ③ 子どもは、家庭で自主的に学習している。(33.9%)	① は、過去9年間を通じて否定的回答が高い傾向にある。本年度は昨年度より更に6.3%増加した。 ② は、昨年度より3.9%増加した。 ③ は、昨年度より6.5%増加した。

②昨年と比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目(昨年比±%)	回答の分析
増加	本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。(＋11.7%)	学習指導に関する項目で、本年度は学習指導に関する項目4問とも、昨年度より増加している。
減少	家庭では、日頃からお子さんに家庭で役割を与え、決まったお手伝いをさせている。(△6.3%)	当校独自項目であるが、肯定的回答率が57.8%と、低い結果となっている。

(4) 地域・学校関係者の選択アンケート結果

- ・18の設問項目に対し、肯定的回答が多かった項目と否定的回答(「わからない」回答含む)が多かった項目は下記の通りとなった。
- ・肯定的回答の(%)は、Aとても思う、B思う回答合計、否定的回答の(%)は、Cあまり思わない、D思わない、Eわからない回答合計を示している。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 学校行事の内容は充実している。(100.0%) ② 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。(100.0%) ③ 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。(95.3%)	① は、学校行事に関する項目で、昨年度より5.9%増加し、肯定的回答率が100%となった。 ② は、学校の安全性についての項目で、昨年度より、5.9%増加し、肯定的回答率が100%となった。 ③ は、学校からの情報提供に関する項目で、昨年度より4.7%減少した。
否定的回答	① 「学び舎」の活動について、情報が提供されている。(33.3%) ② 学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。(28.6%) ③ 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。(14.3%)	①、②とも学校からの情報提供に関する項目で、①は昨年度より15.6%増加し、②は、昨年度より11%減少している。 ③ は、生活指導に関する項目で、昨年度より15.2%減少している。

②昨年と比較して肯定的回答率が大幅に増減した項目

	項目(昨年比±%)	回答の分析
--	-----------	-------

増加	通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。(＋15.2%)	上記否定的回答③に記載のとおり。
減少	「学び舎」の活動について、情報が提供されている。(△15.6%)	上記否定的回答①に記載のとおり

(5) 自由記入アンケート結果

① 記載内容の仕分けについて

- ・昨年同様、記載内容が様々であるため、評価の関係上、内容を意図、主旨毎の分類に仕分けを行った。
- ・記載意図は、「意見」「要望」「御礼」の3分類に仕分けした。
- ・記載主旨は、「学習指導」「生活指導」「学校行事」「学校運営」「教職員」「広報・情報提供」「教育環境整備」「安全管理」「学校全般」「その他」の10分類に仕分けした。

② 記載内容仕分け結果

記載意図 記載主旨	意見	要望	御礼	合計
学習指導	7		2	9
生活指導	1			1
学校行事	2	1	1	4
学校運営	15	9		24
教職員	8	1	4	13
広報・情報提供	3	2	1	6
教育環境整備				
安全管理	1	2		3
学校全般	6		4	10
その他	3	1		4
合計	46	16	12	74

③自由記入アンケートまとめ

- ・記載意図は、「意見」が最も多く、続いて「要望」、「御礼」であった。これは昨年度と同様の傾向であった。
- ・「意見」の記載主旨は、タブレットの使用、クラス編成に関する内容等「学校運営」に関する記載が多い。また、先生の指導に関する内容の「教職員」の記載が多い。
- ・「要望」の記載主旨も、ランドセルの見直し、タブレットの持ち帰りやプールの暑さ対策等「学校運営」に関する記載が多い。
- ・「御礼」の記載主旨は、「教職員」への感謝と学校全体の教育環境に関する感謝の記載が多い。
- ・昨年度に比べ回答数は減ったものの、設問を一つにしたことから、記載内容は多岐に渡っていた。そのため、記載主旨の仕分けにおいて、一つに絞れない記載が多く見られたが、記載内容からしてウエイトが高い部分の主旨でまとめた。

4. 令和5年度桜町小学校重点目標に対する学校の取組み結果について

『令和5年度世田谷区立桜町小学校学校自己評価報告書』より記載

重点目標1について

- 「『すすんで自分の考えを伝えようとしている』と自己評価できる児童を85%以上にする。」については、児童アンケート項目「授業では、すすんで自分の考えを伝えようとし

ている。（手を挙げて発言・話し合う・書き表す など）」についての結果を見ると1～4年生については90%を超えているが、5・6年生については85%に満たなかった。やはり高学年になるにつれて自ら発信する意欲が下がってしまっているという現状がある。「発言する」ということのみで価値を置くのではなく、ロイロノート等に意見を書き出し、それを共有することで自分の意見や考えを伝えていることになるのだということを通理解していく。一方で「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」（5・6年生）については90%を超えているので、学び合いの場は十分に創出できており、それを児童も実感していることがわかる。今後も、共感・協働の学びにおいて、発言は得意ではないが静かに考えている児童の思いや考えを共有することの重要性を浸透させていく。

- 「『自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある』と答える児童を（5・6年）85%以上にする。」については、65.5%と大きく下回った。これは、総合的な学習の時間の単元開発を行い、児童が夢中になって探究する活動を創出することはできたが、そのことが「じぶんの生き方や将来について考える」ということに項目と児童の意識が結びついていないということが考えられる。職業調べや職場体験等の直接的なキャリアに関わる教育活動だけが、キャリア教育ではないことを折に触れ伝えていく必要がある。我々教員が、キャリア教育の4つの視点を意識し、全ての教育活動を捉えなおし、キャリアパスポート等を活用して児童に働きかけていくことが必要である。

重点目標2について

- 「『自分には良いところがある』と自己評価できる児童の割合を90%以上にする。」については、1～4年生は90%を超え、5年生も88%と90%近くになっている。高学年になるにつれ、より客観的に自分を見るようになっていたり、自己批判をするようになっていたりすることは発達段階の特徴ともいえる。しかし、心理的安全の高い学級経営を心がけ、子ども同士の共感・協働の場面を学びの必然に応じて創出していくことで、自己有用感や自己肯定感がさらに高まっていくと考えられる。
- 「『誰かの役に立っていると思うことがある』と自己評価できる児童（5・6年）の割合を80%以上にする。」については、72.7%であった。これについては、にじいろ班、桜町タイムのあいさつ、クラブや委員会活動等において、高学年が活躍できる場所を創出してきたが、さらに機会を捉え教職員から、認め励ます言葉がけ等を行う必要がある。また、総合的な学習の時間において、地域での体験活動、探究活動が増え、地域の方々から感謝される場面が増えていることは、今後子どもの意識によい影響を及ぼしていくものと考えている。

重点目標3について

- 「体育の授業や外遊びなどで体を動かすことが楽しい」と「マナーを守り、よくかんで落着いて給食を食べている」については「わたしは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」という項目に集約したが、85%であった。90%には至らなかったが、おおむね意識できていると考えている。体育の授業は体育主任が中心に用具の充実及び指導方法の共有等が継続的に行われている。生活指導部では、外遊びの推奨を呼び掛けている。今年度は2学期間給食室改修工事のため、お弁当だったが、3学期に給食が再開し、子どもたちは喜びよく食べている。マナー等に関して大変よいと捉えている。

「安全・安心な学校づくり」についての評価

児童が安全に登校し、安全に下校することは、すべての教育活動の大前提である。防災・防犯教育、安全指導、避難訓練等を通して、児童の危険予知能力、危険を回避する能力を身に付けることを目指し、生活指導部を中心にして取り組んできた。

「安全に気を付けて登下校や生活をしている」と自己評価できる児童の割合は、全学年とも90%を超えている。また、地域・学校関係者のアンケートでは、「通学している子どもたちは、

交通ルールなどを守っている」の肯定的回答について、85.8%と高い評価をいただいた。学校の取組が児童に浸透し、変容が見られていると捉えている。保護者アンケートにおいても「本校は、安全な学校づくりをすすめている。」の肯定的評価は89.9%と高い。今年度も、「いのちを大切に作る日」の指導を含め、交通安全指導に重点を置き、年間を通してPTAと連携しての交通(自転車)安全教室や通学路安全マップ(PTA作成)を使用しての安全指導等を実施した。また、生活指導部を中心に、月に一度、下校時の見守りを行う週間の設定し安全教育を徹底している。

「地域との連携・協働による教育」についての評価

今年度も、「地域と共に歩む学校」として、学校運営委員会や学校支援地域本部、学校支援コーディネーターと共に、地域と連携し、地域に根ざした教育活動を行った。

地域の方の独自評価項目において、経営方針については概ね評価いただいた。さらに、地域と学校との連携の可能性について探っていく必要がある。学校からの情報発信について、さらに様々な機会を捉えて行うことが望まれている。

安全な学校づくりについては、地域では100%、保護者はほぼ90%の評価をいただいた。さらに子どもたちのために安全な学校づくりを徹底していきたい。

今年度、かなり活動が充実したが、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域に根差した教育活動をさらに具現化していきたい。地域との連携を深め、学びの場を学校の外へ創っていくことで子どもたちが必然を感じながら生き生きと探究的に学ぶことにつながると信じている。

5. 所見と学校への提言

(1) 重点目標に関して

- 本校の重点目標1である「全ての教育活動における探究的な学びを通して、学習を自分事として捉え主体的に学び、高い思考力・判断力・表現力、必要な知識・技能を身に着け、共感・協働する子どもを育てる。一確かな学力の育成一」に対する取組みの効果は、児童(5・6年生)の選択型アンケートの「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたり時間を授業の中で取っている。」と「授業では、考えたことを話し合ったりする機会がある。」に反映されますが、ともに肯定的回答率が92.1%と項目全体で最も高い数値となっていますが、昨年比では前者が△3.1%、後者が△2.3%と減少しています。一昨年比では前者が△5.9%、後者が△4.9%と肯定的回答率の減少が続いています。一方、保護者の選択型アンケート結果の学習についての項目である「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。」の肯定的回答率は94.1%(昨年比+11.7%)、「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」の肯定的回答率は91.1%(昨年比+8.3%)と高い数値で昨年より大幅に増加しており、児童の認識とのギャップが見られます。当委員会も学校公開での授業参観を通じて、保護者の肯定的回答率が高いことは理解できることであり、学校の自己評価においても「今後も、共感・協働の学びにおいて、発言は得意ではないが静かに考えている児童の思いや考えを共有することの重要性を浸透させていく。」と認識されており、来年度も学習指導について引き続き注視いたしたいと思えます。
- 本校の重点目標2である「非認知能力を育成することを通じて自尊心をはぐくみ、多様性を認め他を尊敬することのできる子どもを育てる。一豊かな人間性の育成一」に対する取組みの効果は、児童(5・6年生)の選択型アンケートの「わたしには、自分には良いところがあると思う。」と「わたしは、だれかの役に立っていると思うことがある。」に反映されますが、肯定的回答率は前者が79%(昨年比+0.6%)、後者は72.7%(昨年比△6.8%)となっています。昨年度より行われているにじいろ班活動(たてわり班活動)、高学年が活躍できるクラブや委員会活動ならびに学級での取り組みによる児童の自尊感情の醸成の継続と強化を期待しております。一方、保護者の選択型アンケートの「家庭では、日頃からお子さん

に家庭で役割を与え、決まったお手伝いをさせている。」は、否定的回答率が42.2%（昨年比+6.3%）と高い数値になっており、昨年度の報告書でも記述しましたが、自尊感情の醸成は、学校教育だけでなく、保護者もその役割を担うため、学校から保護者への啓発を進めていただきたいと思います。

- 本校の重点目標3である「体力の向上を図り、自らの気力を充実させてやり遂げようとする子どもを育てる。一健やかな身体の育成」に対する取組みの効果は、児童（5・6年生）の選択型アンケートの「わたしは、体力の向上と健康な生活に取り組んでいる。」に反映されますが、肯定的回答率が75%と昨年度から8.9%減少しています。一方、保護者の選択型アンケートの「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」は肯定的回答率が79.6%と昨年度から5.2%増加しています。児童との認識のギャップは見られるものの、学校の自己評価においては、「体育の授業は体育主任が中心に用具の充実及び指導方法の共有等が継続的に行われている。生活指導部では、外遊びの推奨を呼び続けている。」と認識されており、来年度も引き続き児童の体力向上の取組みを注視したいと思えます。

（2）選択型アンケートと自由記入アンケートから見られる留意事項について

- 児童（5・6年生）の選択型アンケート結果で記述したように、「先生たちに相談できる。」の否定的回答率が27.4%と昨年度より8.7%増加しています。特に6年生は36%と昨年度より17%増加しており、留意すべき事項と考えます。原因の特定と改善をお願いいたします。
- 保護者の選択型アンケート項目で「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。」の肯定的回答率が65.2%と昨年度より3.8%減少しています。自由記入アンケートにもPTAの廃止や在り方の見直しを要望される意見が見られます。これらの状況は、学校がより良い教育活動を行う根幹に係わることでありますので、学校、学校運営委員会、PTA、学校支援地域本部、地域町会、おやじの会、当委員会等が連携して、協力を促せる環境づくりを検討していく必要があると思えます。

（3）キャリア教育について

- 昨年度より、キャリア教育が積極的に実施され、本年度の学校経営方針においては「キャリア・未来デザイン教育」を実現するために「せたがや探究的な学び」へと学びの質的転換を掲げられました。学校公開での総合的な学習の時間や学習発表会の参観を通じ、子どもたちが楽しく学び、活動している状況を認識しています。児童（5・6年生）と保護者の選択型アンケートのキャリア教育に関する項目の肯定的回答率はまだ低いですが、学校の自己評価は、「我々教員が、キャリア教育の4つの視点（①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力）を意識し、全ての教育活動を捉えなおし、キャリアパスポート等を活用して児童に働きかけていくことが必要である。」と認識されており、来年度も引き続き地域との連携強化が行われ、更なる質的向上が図られることを期待しております。

（4）安全管理について

- 安全管理については、保護者の選択型アンケート項目「本校は安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答率が89.9%と昨年度より2.4%増加し、地域・学校関係者の選択型アンケート項目「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答率が100%で昨年度より5.9%増加しています。学校の自己評価でも記載されているように、児童に対する教職員の安全教育の取組みやPTAと連携した安全指導の効果によるものと評価いたします。

(5) 学校、保護者、地域との連携について

- 地域との連携について、保護者の選択アンケート項目「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的回答率が74%と昨年度より8.5%増加したことは、新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、地域と連携した総合的な学習が積極的に行われたことなどによるものと評価いたします。一方で、地域・学校関係者の選択アンケート項目「地域の人や施設を教育活動に活かしている」の肯定的回答率は85.7%と高い水準にあるものの、昨年度より3%減少していることから、学校と地域間のコミュニケーションを引き続き強化していく必要があると思われます。

以上